

刊夕日四月三



第一編 第一卷 第一號  
發行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日新聞印刷局  
電話 六三〇  
社址 常磐毎日新聞社

### 山あれば谷あり

眞 繼 雲 山

春が来た。花はなくとも春の朝はさはやかだ。丸で神の國のやうな心地がする澄み切つた秋の自然もスツキリとするが何となく行く手が薄ら寒い。そこへゆくくと春の天地はほがらかだ。四季を通じて朝はたしかにいゝ。カラリと晴れた朝は言ふまでもないとして、雨の朝もいゝ、雪の朝は殊更らに静寂さを感じる。但しそれは机に對し、窓外を眺めての話である。夕景の騒音は何となく哀愁を覺ゆるが、静居三昧にあれば、そこにも禪味を看取し得る。短い一日の間にすら既に斯うした消長がある。人生に榮枯があり、歴史に盛衰がある筈だ。

代議士になつて勇敢に泥合戦を試みたいといふことではなくして、ひとへに静居三昧を求むるにあつたらしい、私は今にして漸くその域に達し得た。それはまことに安直な本願であつた。朝湯に入り佛前に讀經し新聞を見、書信を整理し、讀書執筆し、湯に入りて寝るそれが一日の行事だ。雨も雲も今は私の心を傷ける何物でもない、却つて風情を添へ詩意をもたらしてくれり會心の友だ。平凡といへば平凡、静寂といへば静寂今は閑居してます。清澄を覺ゆるだけだ。これが私の人生行路であり、極樂世界であり、同時に全宇宙が私の六疊の天地に納まつてゐる。名譽や金は求むべく努力してゐないから従つて訪れては來ないが結局わづらびがなくてよい。私の行路には山がないから谷がない、謂はゆる中道である。登るものは下らねばならぬそれが私はイヤなんだ。私の友人で、二年前に渺たる市會議員選挙に落選した男がある。當夜、落選見舞に行つて見ると、妻女はワン／＼泣いてゐる。運動員

は責任のなすり合ひで血相かへて殴り合を演じてゐる實に暗慘たる光景であつたどうであらうその友人が今度の總選挙で目出たく代議士に當選、一陽來復いやモウ大變な景氣だ。さうかと思ふと或る友人は過去何年間、華やかな代議士生活で、舊友たちを羨やませてゐたが、今度は敢へなく惨敗した。恐らく彼れに取つては天地ために顛倒して、こゝ當分はその前途陰慘寂寞を極むるであらうテモ同情に價する。だが、咲いた花なら散らねばなる

### 文藝募集

まい、登つた山なら降りねばならぬ。その降り下りが私は面倒なんだ。私のゆく道は山がない、従つて谷がない、垣々底の如き静けさである。私は寂滅爲樂を現身に體得してゆくつもりなのだ極樂とは繪にかいたやうな華やかさではなくして、苦求むるところなくして、苦樂ともに謝し終つた寂滅爲樂の一境を言ふであらう。求め集める道には樂しさがある代りに苦しみがある。求むるなき生活は平安である。

## 吉田眼科病院

平野町、電話六八八番

### 冬に通學服

當店特製の黒小倉通學服を豊富に取揃へて御座います。

長ツボン付  
小學生用……・85錢  
同(特製品)……1・90錢  
中學生用……2・80錢

ふかや洋服店 平野三電203

### 江戸前料理 倉巻

御重入辨當

寄なべ はまなべ 鳥なべ  
ちりなべ かきなべ

ゼヒ一度御試食下さい……  
出前迅速 錦水  
田町末廣東隣り(電話四五四番)

### 専門 内科一般

宅診 内科は何でも診療致します  
往診 呼吸器病ばかりではありません  
平野町南六五

### 川井内科診療所

醫學士 川井重子  
女醫 川井安子  
電話一八一番

### 意用御の級進學入方様子お

ルセドンラ

靴。子帽生學

ルヤツ

〇四一電

總革製  
七十八錢  
九十錢  
一圓卅錢  
四圓廿錢

### 外科

門專  
科線光 X

### 上田外科醫院

平野町南  
電話一二九番

### 正確な時計

平野常盤屋時計店

お客様本位の……

### 好適の眼鏡

# 金成氏を校長に

## 中堅農民學校

### 四月一日から開校

植田電氣會社社長金成通氏は「農業に従事し或は従事せんとする農村青年子女に對し農業に關する知識技能を授け共にその徳性を涵養し國民生活に須要なる教育をなす」

目的で 今回同氏の自

村石城郡錦村大字江栗字馬場に實業補習學校令による『私立石城郡錦村中堅農民學校』を設立することになり設立代表者荒井一二氏の名を以て縣に認可申請中である、縣も時宜に適したるその趣意に

共鳴し 更にその學校

經營の計畫が實に理想的なる點を認め近く認可をなす方針である、修業年限は男子二ヶ年、女子二ヶ年、定員各六十名づゝ授業料一ヶ月一圓で専任教員を三名置き更に農業教育並に一般教育の權威者十數名の囑託教員を置く豫定である、金成氏は政界、事業界に

活躍して存分にその

手腕力量を發揮する傍ら常に郷黨の農村青年子女を教養指導すべき機關の必要を痛感してゐたが此の程素志貫徹して右農民學校の設立を見るに至つたものなり成氏自ら校長となり青年教育

### 第一線に働くことに

なつてゐる四月一日開校の豫定で實習地も多くまた青年教育の殿堂たる輝かしき校舎も近日村の一角に落成を見る

### 海軍志願

#### 合格者

既報一日より昨日迄平第三小學校に行はれた海軍志願兵の試験は昨日を以つて終了したが今回の志願者は事變其の關係で例年よりも体力學科共優秀な者が多かつたとの事である平警管内志願者中の合格者は左の廿九名である

- (平町) 佐藤祐吉 渡邊弘 美 船生強 田村正二 (内郷) 大友繁 佐藤慶三 郎 須田一男 高萩信義 齊藤武夫 (好問) 中村米 光 木田徳 清野義夫 (赤井) 矢野節男 萬金七 鎌倉英雄(磐崎) 清水武 佐藤徳治 高槻忠友 小 野芳正 岡部武男(永戸) 草野長男 (澤渡) 上遠一 枝 佐藤左内(三坂) 佐藤 祥吉(神谷) 佐藤忠吾(平 窪) 加澤治(上小川) 根本 締男(下小川) 村上善治

### 平小鐵道の

#### 線上げ運動

關係各町村代表から 政府當局に迫る

平、小名濱間の所謂平小鐵道敷設問題に關しては既報の如く小名濱町が明年度豫算に運動費として一十圓を計上し臨時議會招集前に地元選出代表士を介して猛運動を開始する事に決定したのに對し町村長石城支會並に平町では現内閣を頼るにあらずんば實現容易に困難であるとなし四月早々猛運動を開始する事となつたが右について伏見平支局長は

願兵の試験は昨日を以つて終了したが今回の志願者は事變其の關係で例年よりも体力學科共優秀な者が多かつたとの事である平警管内志願者中の合格者は左の廿九名である

撞球選手権大會を催し優勝組には大カップを賜る筈で希望者は十日迄會費五十錢を添へて同所へ申込まれたしと

### 志願者

#### 平商入學難

##### 殺倒

平商業學校の入學志願は不況の折柄にも拘らず年々増加の傾向を示し昨年は募集人員百名の二倍に達し實業學校中縣下隨一の入學難校と目されてゐたが縣下各小學校の内報に依れば本月は更に増加し恐らく二百五十名に上るものと觀測されてゐる而して他の中等學校が年々入學志願者の減じて行くに反し同校が異例の増加を示して行くのは或る可く速かに實社會に出でんと希望する者が多くなつた結果であらうと見られてゐる

### 平陽校刷新

#### 知事から認可

平町酒井みよ女史から申請中の私立平陽女學校技藝科併置の件は今回村井知事から認可されたが同校は本科技藝普通科、技藝高等科、師範科、専攻科の五部に分れ専攻科は修業一ヶ年その他は二ヶ年で募集人員は本科、普通科各百名、師範科六十名、専攻科四十名、授業料は一ヶ月左の如くで外に入學料一圓を要す 本科、師範科各一圓五十

錢、技藝高等科、専攻科各一圓二十錢、同普通科五十錢

### 平町日用品

白米	一等一キロ	一七〇
	二等	一六五
	三等	一六〇
白麥	同	一二〇
平麥	同	一四五
味噌	一貫匁	五〇〇
醬油	一升	三五〇
清酒	同	九〇〇
木炭	樞丸一貫目	二〇〇
	樞木	一七〇
砂糖	赤	一三〇
	白	一〇〇
豚肉	並	二〇〇
	上	二〇〇
牛肉	並	二〇〇
	上	二〇〇

### 平職業紹介所報告

- ◆求人部
  - △女中 卅歳 尋卒 月十
  - △女中(東京市某)
  - △農夫 卅歳 尋卒 月八
  - △園位(高久村)
  - △出前持 廿歳前後 尋卒 給料面談(平某そば屋)
  - △女中兼兒守 尋卒 仕着 外四圓位
- ◆求職部
  - △出前持 廿四歳 高卒 給料面談(内郷村某)
  - △出前持 廿四歳 高卒 給料面談(北海道夕張町某)
  - △給料面談(好問村某)
  - △給料面談(廿六歳 尋五修)
  - △給料面談(廿六歳 尋五修)
  - △給料面談(廿六歳 尋五修)
  - △給料面談(廿六歳 尋五修)
  - △給料面談(廿六歳 尋五修)
  - △給料面談(廿六歳 尋五修)

## 募一二勇士遺族の 甲慰金

嗚呼忠勇無比の三勇士何ぞ其の壯烈なりしぞ鬼神も爲めに慟哭せむ。實に振古未嘗有驚天動地の偉業にして人生を超越し洋の東西に冠絶す。古今英雄多しと雖も蓋し三勇士に如くものなからん宜なる哉其の心情英雄以上の英雄なり。

今や同胞國を擧げて戦に赴かんとす誰か彼の三勇士に感激せざるものあらむ殊に目下外交は危機に瀕し東亞の風雲彌々急ならむとする秋、内は國民の士氣を鼓舞し外は國軍の威武を宣揚する誠三勇士に負ふ處甚だ大なるを痛感するなり。

名將曰く『吾が皇國も三勇士ありて亡びず』と真に至言にして正に彼を弔ふ最大最高の弔辭なり。

然り彼等三勇士こそ日本軍人の範鑑にして大和民族發展の尊き犠牲者なり。

吾人は彼等殉國の忠誠を永遠に紀念し併せて千古不磨の英靈を弔はん爲め彼の三勇士遺族へ薄志を饒け以て聊か勇士の靈を慰んとす

愛國の士奮つて賛せられんことを

### 阿部政右衛門 常磐毎日新聞社

後援 但し 一、弔慰金一人金拾錢均一に願ひます 二、右弔慰金は平驛前丸ッ阿部石炭店又は常磐毎日新聞社に御届を乞ふ 三、寄附者芳名を常磐毎日新聞紙上に掲載領收書に代ふ

### 寄附者芳名 第四回分

- 長谷川 浩太郎 廣木 榮之助
- 江尻 國政 木村 勝右衛門
- 魁 文 堂 千葉 彦治
- 小松 書店 鈴木 軍司
- 大須賀 元之助 矢 内 忠
- 廣邊 勤 太夫 松木 己之松
- 大河内 クマ 齊藤 茂次郎
- 中村 作二郎 木田 準一
- 大角 金藏 若松 公平
- 大平 郡司 本田 初吉
- 菊地 喜市 高橋 幸
- 小野 鶴松 武藤 治郎三郎

# 遺失主は誰れ

## 平署二月の拾得物

舊正月と選挙騒ぎも手傳つてか去る二月中平署で取扱つた拾得物は近來になく多く金額も一口廿五圓八十六錢を最高に十五圓二十八錢七圓三十錢を初めとし左の如し

白銀町下藤清吉君は二月一日田町地内で五圓紙幣一枚を、紺屋町の飯塚春君は同日紺屋町地内で中古自轉車一臺、四軒町中島唯市君は四月二丁目地内で現金一圓を、仲町の小松崎芳太郎君は六日仲町地内で一圓十錢在中の財布を、平窪村宇勝見澤の新妻ヨシさんは八日古鍛冶町地内で二圓五十錢在中の墓口を、内郷村宇

旬より賣行。減少し問屋の抱込み品が多くなつたので漸次相場が低下し一俵に付八錢餘の安値となつたので地方の生産者も發送を見合せる者が續出してゐた有様であつたが今月に入り急激な暖氣の結果木炭の需要は益々下落して一俵に付十五錢程の値下を見るの止むなきに至つたので地方木炭の生産者は愈々持ち越製品の所置に頭を悩ましてゐる

## 平町豫算町會

# 委員付託

## 本會は廿七日召集

平町の七年度豫算町會休會明け二日目は三日午前十時から開き豫算原案全般に亘り質議應答の後伏見議長から豫算委員青沼録太郎他十四名、決算委員井上茂作外四名を指名して休會委員會は四日から召集七日午前十時から本會議を開き審議議決を見る筈

# 無盡名義で掛金を騙取

## 犯人平署に檢舉

署で取調中である

## 濱三郡の木炭下落

### 當業者悩む

石城郡内郷村字白水無職石橋金太郎(四〇)及び同人の友人たる双葉郡廣野村字上淺見川元坑夫福島安三郎(三三)の兩名は昨年十一月頃より其筋の許可なくして共同積立講なる無盡講を組織し一回拂込金一圓五十錢を月二回として四十餘名の會員を募り約五十圓餘の積立金を消費してゐた事發覺目下平

# 小兒を轢く 乗合自動車

上遠野村鈴木子之吉方運轉手藤田友一(三三)は二日午後二時五十分頃乗客五名を乗せて植田町大字佐糠地内國道を疾走中停車してゐたトラックの蔭から駆出した同町齊藤猶一三男芳正(五)を刎ね飛ばし左耳に傷を負はせた

## 記念日に

# 軍事講演

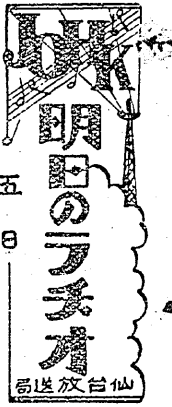
## 各町村日割

十日の陸軍記念日には時節柄各在郷軍人分會及び各町村役場では共力軍事講演を行ふ事になつたが今回は殊に福島縣隊區の入谷少佐平商業學校配屬の駒場中尉等が左の日割で講演を行ふと

# 花たより

去年より早い

春三月——赤井嶽は未だ残雪を冠して居りますがそれでも石城地方は二十年來の暖かさで昨今は寒暖計も六十度を突破して居ります早や梅も過ぎてそろそろ桜花のたよりを聞くやうになりました。郡下でも一番早く櫻花のほころびを見る植田町では青年團が發起となり今年も八幡公園に櫻花廣告燈を數百取りつけることにこの程の幹部會で決定して目下植電會社と交渉中とあります



今晚は南西の風 曇明日は北西の風 風に變り晴

## 今晚の部

- 後六、〇〇(子供の時間) 童話「葡萄畑」 武田良助
- 後七、三〇 時事講座「三勇士の面影を偲びて」 工兵大尉 安部幸二郎
- 後八、〇〇 講談「無名の愛國者」 神田伯英
- 後八、三〇 運動競技「大日本拳闘クラブ主催拳闘試合状況」 日比谷公會堂より中継
- 後九、三〇(奉天より)

## 明日の部

- 「時局に際する滿鐵従業員」 滿鐵列車區社務長秋山豊作
- 後九、四〇 全國ニュース 氣象通報 番組豫告
- 後九、一〇 料理献立「炒魚片と芙蓉ユウ」 外澤松操學校
- 後一〇、三〇 婦人講座「宗教と國家」 松平俊子
- 後一〇、〇五 講談「蛇の目」

## 磐城丸

# 新造

鋼鐵船に改む 豫算約九萬圓

縣立水産試験場指導船磐城丸は腐朽甚しく使用に堪へぬ爲め昨秋の縣會に新造案を提出可決されて居るが愈々本年度新造に着手するこ

## 平町人事

- 結婚 〇
- △北海道札幌市南三條西二丁目六横山季男氏(二七)
- △平町北目町十二 鈴木ツネ(二二)
- △久保町三三 青木アサ(四二)

## 風の今曉三時

# 廣野驛火事

## 倉庫一棟全焼

(富岡電話) 本日午前二時五十分双葉郡廣野驛構内の倉庫より發火し折柄の風に火の手は驛の東屋に移らんとせるを消防組の活動によ

科人婦・科外 院醫坂井

町田町平 番九五五話電

(鏡) (眼) と (計) (時)

店計時橋高

路小橋才町平 號堂幸精

- 坊主「太田貞水
- 後二、〇〇 家庭講座「箏曲」(六) 宮城道雄實演宮城芳子
- 後五、三五 講演「教育の根本轉回」 成城學團長小原國芳
- 後六、〇〇(子供の時間) 「戸別訪問イソップ物語」 徳川夢聲
- 後七、三〇 講演「母の日に就て」 島津治子
- 後八、〇〇 獨唱と管絃樂(新交響樂團練習所より中継)
- 後八、四〇 義太夫「一谷嫩軍記」 竹本東廣
- 後九、三〇(奉天より) 「滿洲旅行に就て」 奉天案內所主任 西田龜萬夫



(百六十八)

【載轉禁】

渡邊 默禪 作  
布施平八郎 畫

破綻 (3)

それを黙つて聞いてゐなければならぬ郁子は、總心膏汗にいたるほどの苦痛であつた。が、極度まで押詰るとその苦痛が恐ろしい反動に變つて來た。怒りに震える筋肉が眼も眉もひきつられて顔の色を眞青にさせた。今まで逃げ腰になつてゐた姿勢が、敵を壓しつけるやうにちり／＼と前へ爪立てるまでの攻勢になつた。『それだけかい、お前のいふことは、私を攻撃したいなら何故もつと／＼深刻に言つてくれないのだ、そんなことで私の心を動かして自分の方に惹きつけやうとしたつてそれは駄目の皮よ私はね、高野、お前たち風情に監督されてゐる体ぢやないんだからどんなことを言はれようともちよつとも痛くも痒くもないの。で、言はれたことに一々辯解して聞かせる必要はないけれど、念の爲に私の立場だけを明かにして置かぬ。いかにも私はあの鳥部花子といふ女にも交際してゐればその兄の北川信太郎とも交際があるし、いつか二人に勧められて一緒に寫眞を撮つたこともあつたのだから

れどもそれは單純な交際なの。女は洋樂と舞踏、男は米國のキネマ役者で、どちらも藝術に熱心な新しい人たちだと思つたもんだから趣味の上から親しくなつて往つたり來たりしたゞけのことよ。そりやあ誘はれて

ふのさ。何か私に後暗いことでもあると思つて眼を釣り上げながら充奮した聲で言つた。全身はもう怒りにわく／＼とふるえてゐる。高野は冷笑しながら『ウハ、ちや清い交際で何でもないんですわ、紳士淑女の交りなんですね、然うさ何でもありやあしないのよお前の汚れた目で見るとから他人も自分のやうに汚れてゐると思ふのだわ』ちやんちやん可笑しい。どつちが汚れてゐるんだ。それでは最う一つ言ふことがある』その時鳥帽子岩の下にあ



一緒にダンスの會へ出かけて行つたこともあつたさ。男と女が一つ車に乗るのが何故いけないの。醜業婦だの淫賣宿だのといふけれど、そんなことは私の知つたことぢやないわ。私は只藝術家として交際したゞけなの、それがどうしたとい

る路に一人の男が立つた。それが双の朧な影を目敏く新月の光りに見出してじつと此方を視やつた。その輪廓がどうやら川島武雄に似てゐた。その人影は砂丘の蔭にそつと忍び寄つて、青草の上から半分だけ顔を出して、そ

様子伺つてゐた。とも心づかず高野はせつら笑ひをして『奥さん貴女は萬能に通じたお方であの難かしい能樂にまで趣味を持たれてからに、をり／＼喜多流の仕舞をお演になられましたね』意外なことを言ひ出したので郁子はちよつと妙な顔をした。と、その後には繼足した言葉が『その勢か、假面……假面の冠り方がなか／＼お上手だ、全く手に入つたものだ。ヘン、清い親しみ……藝術家としての交際が聞いて呆れる。』

# 美味！ 芳醇！ 宗正らひた

山崎合名會社  
電話一〇番

## 難波醫院

平町新川町  
【釜屋新宅向】  
電話五〇二番

看護婦急派  
の求めに應  
じます  
平町南町  
平看護婦會  
電話三〇七番

外科專門  
花柳病  
木村外科醫院  
入院自炊の便あり  
平町五丁目橋際  
電話三〇九番

毛糸

春向新色澤山入荷致しました  
御値段は  
一オンス十五錢

町  
シモトヤ糸店

## 市原醫院

平町田町(電話二一四番)  
内科、小兒科 市原卯太郎  
外科一般、婦人科 市原陸郎  
外科、梅毒、淋毒 市原三三男  
入院隨時

大塚の  
學生靴!!!  
耐久新製品  
編上靴 六・〇〇  
半靴 五・〇〇  
不安心なるキカイ靴より、安心得る弊店の靴を……  
大塚支店製靴部  
電話七七番

耳鼻咽喉科專門  
大和田醫院  
平町南町  
電話一七〇

御用命印刷物の總代理  
常磐日報印刷株式會社  
電話三六〇番